1.「起業教育」の発行について

大阪商業大学　学長　谷岡一郎

これまで事実として存在し、かつ、これからも変わることなく事実として間違いないことは、「起業」こそが近代資本主義の精神の核である、という経済学者たちの考えです。起業は、我々の競争社会を支える基本エキスであり、体力や足腰の強さであり、それなくしては効率の悪い社会となってしまうでしょう。起業の多寡は、社会の元気印そのものなのです。

とはいえ、何でもかんでも闇雲に起業すればいいというわけではありません。過去に学び、現状を知り、未来を考える。そして生ずるであろう利益・公益と、そのコスト・リスクを比較計算した上でのチャレンジであるべきこと、無論のことでしょう。その意味において、教育内容としてのこの「起業教育」のような冊子は、大変有益で役立つ教科書です。

起業のプロセス

起業をプロセスとしてみれば、「萌芽的アイデア」に始まり、次にそれを実際に計画として形あるものにする「企画・立案」段階に移ります。ここでは、資本金や販売ルート、そして収益見込みなど、（机上とはいえ）多くのことを考えなくてはなりません。続く第三ステップは「実行力」です。実際に人や金や情報を集約し、スケジュールに従って活動を開始するわけですが、ここまでやって初めて起業をスタートしたと感じるはず。とにかく実行の一歩を踏み出すことは勇気の要ることです。起業計画が優れたものであり、理論に裏付けられたものであっても、成功するとは限らないのが恐ろしい点であり、またおもしろい点でもあります。

あとは、発展していく段階での調整と変更プロセスですが、ここにおいて最も重要だと思われる要素は「リーダーシップ」です。リーダーが実際に決断することは当然として、その決断に皆がついて来るか否かが問われます。カリスマ的魅力と安定感・信頼感を人々がリーダーに対し持っていること、つまり徳が必要なのです。

起業教育

テクニカルな側面は、教えることが比較的容易な部分と考えられますが、本人の「徳」に関しては困難かもしれません。願わくば家庭環境の中で培われていてほしいものですが、何歳で始めようと学びうるコンセプトでもあると信じます。起業に限らず、学びたいことをスタートさせることが悪いはずないですね。

徳やスピリットを学ぶひとつの方法は、尊敬できる人々とお付き合いを重ねること、少なくともそうしようとする気持ちを持ち続けることでしょう。その点で、実際に起業に成功した人々は得難いリソースですが、個人意見としまして「起業に失敗した人（それでいてメゲない人）」から学ぶこともそれ以上にあるのだと言っておきましょう。

起業教育研究会は大阪商業大学の教員を中心に、多方面の方々にご助力をいただきながら活動を行ってきました。これからも活動をさらに発展させ、その成果を報告してくれるものと思います。この場を借りて日頃ご協力を賜っている関係者の皆様に、感謝申し上げます。